

# 広報ふたば

双葉郡小学校長会  
第112号  
会長 井戸川 貴行  
副会長 井戸川 貴小

## 双葉郡小学校長会あいさつ

### 十年を振り返って



広野町立広野小学校校長

井戸川 浩

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故から十年が経過しました。その間、双葉郡の小学校はすべての学校が避難先での教育活動を強いられ、地元での学校再開や新設が進みました。そしてこの春、義務教育学校「川内小中学園」が開校し、次年度にも大熊町や富岡町、楢葉町で義務教育学校の開校や統合が予定されています。しかし一方で避難先での教育活動を継続する学校もあります。十年前の平成二十三年三月十一日十四時四十六分。大きな地

鳴りとともに激しい揺れが襲いました。児童の安全確保と避難者の対応であったという間に朝を迎えると同時に避難となりました。全国各地に散らばった児童の安否確認は、困難を極めました。最終的に全員の確認ができたのは、何ヶ月もたった後でした。その後避難先や地元に戻ったの再開となりましたが、集まってきた児童の運動着がまちまちだったのが印象的でした。そして地域はもちろん全国の多くの方々の支援をいただきましたが、教育活動を行ってききました。本校では、震災前と同じよう

に、もう一度町の賑わいを取り戻そうという取組を総合学習で行いました。そして、町の新たな特産品として栽培しているバナナを調べていく中で、バナナペーパーと出会いました。そこから卒業証書づくりが始まりました。バナナを栽培している人、和紙作りをしている人など、さまざまな人との出会いにより多くのことを学んで来ました。地域の「ひと、もの、こと」などの多くの出会いが子どもたちを成長させてきました。



復興の着実な歩みと同時に、めまぐるしく地域が変わっていく中で、震災の記憶が忘れ去られていくのを感じています。あの池田小事件から二十年が過ぎましたが、月日がたつにつれ人々の記憶は薄らいでいきます。震災を風化させてはいけません。まだまだ厳しい状況は続きますが、ふるさとの未来を担う子どもたちのために、微力ながら取り組みたいと思っております。

## 学校紹介 (なみえ創成小学校)

浪江町立なみえ創成小学校長 高田 英世



本校は開校から四年目に入り、児童数は当初の八名から二十二名に増えていきます。活動の範囲も広がってきましたが、今回は、学校の特徴ある活動について紹介します。

一 総合的な学習の時間  
これまで、浪江町の伝統・文化を伝えるために、浪江やきそば、大堀相馬焼、紅葉汁等を実際に作る体験をしてきました。今年度は新たに、「空ラボ」に参加しています。「空ラボ」とは、航空をテーマにしたプログラムを通じて自分の未来を描いていくものです。先日は福島スカイパークで室谷さんエアショーを見ました。そして、子どもたちが実際に翼を取り付けたモーターグライダーから代表の中学生が撮った浪江町の映像を通して、視点を交え俯瞰的に町の様子をみることで、今年の一ふらさと創造学



二 行事等  
「サミット」では、これらのことを踏まえ、今の町の取組について発表する予定です。

三 放課後活動  
新たに実施できたものが増えてきました。昨年度から水泳、持久走、なわとびの記録会を保護者の前で行い、今年度は浪江町で徒歩による春の遠足を実施しました。地元幾世橋の大聖寺を見学し、道の駅なみえや請戸川の河川敷のゴミ拾いを全校生で行うことができました。

児童の登下校がスクールバス利用であり、体を動かす機会が少ないことや、家が離れているため児童同士の交流の機会も少ないことから放課後に体力作りの場を設けました。指導者は、町のコーディネーターなど外部の方で、ほとんどの児童が希望し毎週楽しく活動しています。また、町内で習い事ができないことから、放課後子どもクラブにおいて地元講師等が囲碁・将棋、習字、そろばん、ダンスを教えています。少しずつ地域の方と児童との交流の場が増え、とてもうれしく思います。

震災から十年が経ち、今年度の転入生は一名と児童の大幅な増加は見込めません。しかし、これからも校長として与えられた環境の中で何ができるのかを考え、保護者や児童、そして地域住民が誇れる学校を作りたいと考えています。

# 新会員の声

## 家宝となる糠床を作りたい

大熊町立熊町・大野小学校校長  
佐藤 由弘



美味しい漬物を作るのに不可欠なもの、それは糠床である。なかには何十年と家庭で代々受け継がれてきた家宝とも言える貴重な糠床が存在する。家宝とも言える年代物の貴重な糠床であっても、初めは当然、糠床の元になる米糠、昆布、唐辛子、柚子皮、鰹節、煮干し、干し椎茸、実山椒などの糠床の元となる材料を集め、誰かが混ぜ合わせることから始められたことには間違えない。しかし、その糠床が、時間が経ち、熟成し、糠床の中に乳酸菌をはじめとしたいろいろな細菌類が育ち、複雑な菌類が入り混じった複雑な発酵によって独特の風味が作られることになる。まさに、唯一無二の「食の財産」である。

糠床を作ったとしても、それをしっかりと管理していくのは、たいへん難しいと言われる。糠

床の温度管理、糠床をかき混ぜ、空気に触れさせるタイミン、新しい米糠や唐辛子、塩の補給の仕方やタイミンなどなど、一流の糠床を維持するには、まさに熟練のおばあちゃんの経験と知恵が必要なのだと思う。おばあちゃんからお嫁さんに、そして娘へと経験と知恵が世代を超えて大切に受け継がれていく。想像するだけでも、実に奥が深い。

大熊町では、令和4年4月の義務教育学校「学び舎ゆめの森」の開校へ向けて、新しい学校づくりが着々と進められている。校長として職員をいかに育てるかが鍵だと感じている。先日、30余年をかけて、一流の学校を作り上げてきた尊敬する先輩から、職員を育てる「糠床」の極意の話を聞いた。私も定年まであと2年。大熊町、さらには双葉郡の財産となる「糠床」を作りたい。糠床となる一流の材料は一通り揃った。「かき混ぜすぎず、弄りすぎず」。年代物の家宝となる糠床作りとその管理の極意を自分のものとするため、日々もがく毎日である。



# 富岡は一つ

富岡町立富岡第一・二小学校校長  
武内 雅之



「おかげりなさい」  
四月に着任

し、保護者や地域の方々、関係機関の方々から七年ぶりの富岡の地でいただいた言葉です。教諭時代の自分を育てていただいた富岡町に校長として着任させていただけると感謝し全力で「地域の宝である子どもたち」を磨き育てていきたいと思えます。

富岡小中学校富岡校は、富岡町で再開し四年目、三春校は十年目となります。今年度末で、富岡校は小中学校をそれぞれ統合、三春校は閉所し、次年度より富岡小学校、富岡中学校がスタートとなります。子どもたちや保護者、地域の方々、そして教職員の思いをしっかりとつなぐ節目となる大切な一年、四校の統括校長、夜の森幼稚園長として身の引き締まる思いです。さて、「富岡は一つ」を合言葉にスタートし、五月には幼稚園・小中学校合同の運動会を

施しました。それぞれの学校での練習とは思えないほどの一体感の中での演技、花を添えてくれる生徒のアナウンス、地域の方々の協力と声援、最後は紅白引き分けという劇的な結果となりました。



現在、子どもたちは次年度に向け、本校の転校生、大友良英氏と一緒に、校歌を作成していきます。コロナ禍の中、リモートで両校をつなぎ、話し合いを進めています。これまで育ててくれた学校や地域への思いを込めたすばらしい校歌が完成することを楽しみにしています。次年度への準備はもうありますが、教育は現在進行形です。地域の方もお借りしながら、この一体感を活かした様々な経験をもとに、児童生徒の学力や健康・心の不安、家庭や地域とのさらなる連携等の課題にしっかりと対応し、次年度につなげていきたいと思えます。今後とも校長会のみならず方のご指導・ご助言をよろしくお願いたします。

## 双葉郡小学校校長会 令和3年度組織

- 会長 井戸川 浩 (広野小)
- 副会長 佐藤 由弘 (熊町小)
- 総務 高田 英世 (なみえ創成小)
- 経理 横山 雄彦 (檜葉南小)
- 監事 伊藤 恒明 (葛尾小)
- 伊藤 恒明 (葛尾小)
- 松本美穂子 (双葉北小)
- 行財政部 佐藤 由弘 (熊町小)
- 研究部 伊藤 恒明 (葛尾小)
- 志賀 拓広 (川内小中学園)
- 生徒指導部 横山 雄彦 (檜葉南小)
- 広報部 松本美穂子 (双葉北小)

## 小学校教育研究会等 双葉地区会組織

- 会長 佐藤 由弘 (熊町小)
- 副会長 高田 英世 (なみえ創成小)
- 監事 伊藤 恒明 (葛尾小)
- 事務局長 横山 雄彦 (檜葉南小)
- 会計 松本美穂子 (双葉北小)



### 統合に向けて

榎葉町立榎葉南・北小学校長

横山 雄彦



榎葉町 教育委員 会 会 長 榎葉町 間、見守り

続けてきた学校に新任校長として赴任できたことは、喜びでもあり、また大きな責任を感じているところ です。

来年度、榎葉南小・榎葉北小は統合し、「榎葉小学校」として新たなスタートを切ります。今年度は、様々な行事、活動が南小・北小としては最後となります。

先日の運動会も南小北小の運動着で行うのは最後となりました。「南北！みんなでいっしょに走り抜こう」のスローガンのもと、青い運動着（南小）と緑の運動着（北小）がいっしょに競技している姿を観ていると感慨深いものがありました。子どもたちには、南小北小を意識している様子は全くなく、すでに一つの学級・



学校として活動しています。もうすでに心は一つなのだと思います。

今後は、新しい校章と校歌の作成や移転先の旧榎葉南小学校の環境整備等、教育委員会、地域と連携をとりながら進めていかなくてはなりません。

統合となれば、教職員数減も免れません。これまでどおりの指導体制は取れなくなり、また、移転となれば、登下校の方法も考えなくてはなりません。特別支援教育の体制維持、教科担任制の導入、スクールバスでの登下校の検討など、様々な課題を町、地域、保護者と連携しながら解決していかなくてはならない大きな責務を感じています。

それでも、新しい学校づくりができることを喜びとして、南小北小最後の校長としての自覚と誇りをもって取り組んでいきたいと思えます。

来年五月には、全員が新しい榎葉小の運動着に身を包み、新しい校旗を掲揚し、新しい校歌を鼓笛パレードで演奏し、綱引きや榎葉音頭を地域の方といっしょに、笑顔で、元氣いっしょに行っている子どもたちの姿を思い浮かべながらチームならはで進んでいきます。

### いたわり合って 声かけて

川内小中学園副校長

志賀 拓広



『いわなすむり そばの里 モリアオガ エルうたう里』

これは川内小中学校の校歌の歌詞です。作曲は先日ご逝去なされた小林亜星氏が手がけたあたにかみのあるメロディーです。四月に開校した義務教育学校『川内小中学園』でも、校歌として歌い継がれています。

この新たな学校に新たな職の副校長として過日着任しました。校長先生の温かいご指導のもと、「すべては川内っ子のために」という情熱にあふれた先生方と一緒に、何もかもが初めての義務教育学校に勤務できること、大変光栄に思っています。

川内小中学園では、一年生から九年生（中学三年生）までの全校生七十七名が元氣に学んでいます。さらに学校の敷地内に保育園も増築され、〇歳から十五歳まで、十五年間の教育施設の集約化が図られています。異学年の交流活動を積極的に取り入れており、休み時間には後

期課程の生徒が、前期課程の児童と遊ぶ姿が日常的にみられます。先日運動会は、保育園と合同開催となりました。家族・保護者のみの応援でしたが、初めての合同運動会は大成功でした。授業では、後期課程の先生方の専門性を生かして、前期課程の子どもたちに指導する乗り入れ授業も取り入れていっています。少人数であっても校種を超えて、年齢を超えて、子どもたちも先生方も一緒に学ぶ姿が、この学校のすばらしいところです。

また、校内に『地域文化伝承教室』という学校と地域がつながる場所があります。これまでも地域の皆様と様々な教育活動を展開してきました。今後も、地域から学び、地域に貢献できる子どもたちの育成に向けて、取り組んでまいりたいと思えます。

校歌の最後の歌詞です。『いたわりあって 声かけて 励ましあって 手をかして』どんな時も、この精神を大切に、副校長としての職務に励みたいと思えます。今後ともご指導の程、よろしくお願いたします。



### 今年度の活動計画

#### 〈行財政部〉

- 教育諸条件の調査・集計
- 教育諸条件改善のための要望活動

#### ○教職員人事に関する調査

#### 〈研究部〉

- 研究の視点
  - 「知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントと校長の在り方」
- 視点一「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善」
- ・児童の実態等を考慮した育成を目指す資質・能力の明確化
- ・資質・能力の育成に向けて、内容や時間のまとまりを見通した単元構想と授業展開
- ・資質・能力を確実に育成するための授業改善に生かす学習評価の充実

#### 〈生徒指導部〉

- 生徒指導上の課題について情報収集と相互連絡
- 関係機関との連携
- 生徒指導の実態調査・協議

#### 〈広報部〉

- 双葉郡小学校長会報「ふたば」の編集及び発行

#### 〈ふるさと創造学の取組〉

- 双葉郡教育復興ビジョン推進協議会
- 小学校絆づくり交流会（中止）
- ふるさと創造学サミット

# 双葉郡の小学校 「現状」

東日本大震災と原子力発電所事故から十年がたちました。双葉郡にあつた十七の小学校。地元で新設・再開された学校がある一方、学校の再開が難しくも避難先での再開を継続している学校もあります。また、在籍児童の急激な減少や不安定な生活環境に伴う児童の心のケア、未だに組織することができないPTAなど、震災によって生じた学校課題も、未だ続いている現状があります。

このような現状ではありますが、今年度は川内村に、九年間の連続した教育の中で、復興を担い世界で活躍する人材を育てるといふ決意のもと、義務教育学校「川内小中学園」が開校しました。未来を担う子供たちの育成に双葉郡一丸となって取り組んでいきたいと考えております。

双葉郡小学校長会では、そんな現状を多くの方々に伝えていくとともに、児童一人一人が将来への夢と希望を持ち、地域の復興に向けた参画者となるよう様々な取組を行っています。

東日本大震災と原子力発電所事故から十年がたちました。双葉郡にあつた十七の小学校。地元で新設・再開された学校がある一方、学校の再開が難しくも避難先での再開を継続している学校もあります。また、在籍児童の急激な減少や不安定な生活環境に伴う児童の心のケア、未だに組織することができないPTAなど、震災によって生じた学校課題も、未だ続いている現状があります。

◎新設・地元再開校 ○避難再開校 ◇廃休校

### 【大熊町】

- 熊町小学校 児童数4名
- 大野小学校 児童数3名

2校合同での学校生活

[平成23年4月 会津若松市立旧河東三小校舎で再開]




### 【浪江町】

◎なみえ創成小学校 児童数22名

廃校  
◇幾世橋小学校 ◇請戸小学校  
◇大堀小学校 ◇苧野小学校  
◇浪江小学校

休校  
◇津島小学校 (R3, 3, 31)

[平成30年4月 旧浪江東中学校舎に新設]



### 【葛尾村】

◎葛尾小学校 児童数8名

[平成30年4月 元の校舎で再開]





### 【楢葉町】

- ◎楢葉南小学校 児童数52名
- ◎楢葉北小学校 児童数56名

※計108名 2校合同での学校生活

[平成29年4月 楢葉中校舎で再開]



### 【富岡町】

- ◎富岡第一小学校 (富岡校) 児童数18名
- ◎富岡第二小学校 (富岡校) 児童数8名

※計26名 2校合同での学校生活



- 富岡第一小学校 (三春校) 児童数6名
- 富岡第二小学校 (三春校) 児童数2名

※計8名 2校合同での学校生活

[平成30年4月 富岡一中校舎で再開]

[平成23年9月 三春町曙プレーキ工場社屋跡で再開]

(令和3年5月1日現在)

### 【川内村】

◎川内小中学園 前期課程 53名

[令和3年4月 川内小学校の敷地で開校]



### 【広野町】

◎広野小学校 児童数170名

[平成24年8月 元の校舎で再開]




### 【双葉町】

- 双葉南小学校 児童数14名
- 双葉北小学校 児童数16名

※計30名 2校合同での学校生活

[平成26年4月 いわき市錦町の仮校舎で再開]



## ＝編集後記＝

感染症対策と教育活動の両立が求められる日々が続いております。各学校、行事の延期や縮小等、まだまだ先の見えないコロナとの戦いですが、子供たちの元気な姿や教職員員の頑張る姿に勇気づけられる毎日です。

広報「ふたば」も多くの方の助けにより発行することができました。ご寄稿いただきました皆様、心より感謝申し上げます。

## 双葉郡の児童数の推移 (単位：人)

町村名	浪江町	幾世橋	請戸	大堀	苧野	津島	創成	葛尾	双葉南	双葉北	熊町	大野	富岡一	富岡二	川内村小中学園	楢葉南	楢葉北	広野	合計
2010.4.1 震災前	558	122	93	157	174	58		68	192	152	333	423	415	521		158	274	311	4121
2011.8.31 震災直後	30	臨時休業	臨時休業	臨時休業	臨時休業	0		0	0	0	149	222	19	26		0	0	65	564
2021.5.1 現在	廃校	廃校	廃校	廃校	廃校	休校	22	8	14	16	4	3	24	10	53	52	56	170	432